

風土記の丘の花だより²⁶⁷

今、そしてこれから見られる植物(2025年4月5日)

新年度が始まりました。風土記の丘はすっかり春の装いになりました。これをご覧いただく頃には、ソメイヨシノは満開でしょうか、それともすでに花吹雪が舞っているのでしょうか。でも、花はサクラだけではありません。足もとの小さな花にも目を向けてやりましょう。



日当たりのよい地面や道の脇などに、とてもきれいな紫色の花が、張り付くように咲いています。シソ科のキランソウです。まるで花屋さんに売っている花のようにきれいです。花が咲いていない時期にはタダの草、いわゆる雑草なので、引き抜かれてしまうこともあります。花が咲いたら、引き抜いてしまう人はいないでしょう。地面にピタッと張り付いて延びるので、地獄の釜の蓋(じごくのかまのふた)に例えることもあります。



山裾や道ばたなどに薄紫色のスミレが咲いています。タチツボススミレです。少し前、小学校の国語の教科書に「三年とうげ」というお話があって、その中に出てきた花です。思い出された人もおられることでしょう。町中の道ばたに生えることはほとんどありませんが、自然度の高い所なら、ごく普通に見る事のできるスミレです。これより少し濃い目の紫色で、花の真ん中の白いのが目立つニオイタチツボスミレもよく咲いています。両方見つけたら、よく見比べてみてください。これからたくさんの種類のスミレが咲き始めます。



赤紫色の細長い花がたくさん固まって咲いているのはムラサキケマンです。葉は細かく切れ込んでいて、高さは10から20センチ程度でしょうか。大きいのと、色が鮮やかなので、よく目立つ花です。ケマンは漢字で華鬘と書きます。とても難しい字ですね。これは仏壇につるす仏具の一つだそうです。それに花の姿が似ているというのですが、その華鬘を見たことがありませんので、似ているのかどうなのか、私にはよくわかりません。



直径数ミリの小さな花、名前はミミナグサです。ふだんよく見かけるのはほとんどが外来種のオランダミミナグサです。この草は自然度の高い限られた所でしか見る事ができません。私が6年前に風土記に来た時に「こんなのが生えているのか」と感動した草のひとつです。ハクモクレンの広場を右に見て歩くと、左側の溝沿いに生えています。除草作業を耐え抜いて、毎年花を咲かせてくれます。この草と、この草が生える環境をいつまでも残したいものです。 松下